令和５年度　第２回　鉄道車両譲受検討委員会　議事要旨

【日　時】　　令和５年 11 月 13 日（月）　16:00～18:00
【場　所】　　本庁舎　２階　市民協働ルーム
【議　事】　　（１）前回の内容確認
（２）譲受を予定する鉄道車両について
（３）その他

◆前回の内容確認
・鉄道車両譲受検討委員会の経緯と目的を説明。
・西武鉄道からの車両譲渡が困難になった経緯、JR からの譲渡も実現しなかった経緯を説明。
・三井不動産から「夢空間」の譲渡検討の申し出があったことを説明。

◆譲受を予定する鉄道車両について
・「夢空間」は、国鉄が JR になって新造された 24 系客車で、1 号車が食堂車「ダイニングカー」、2 号車がラウンジカー「クリスタルラウンジ・スプレモ」、3 号車が寝台車「デラックススリーパー」の 3 両 1 組で構成されていることを説明。
1989 年「横浜博覧会」で初公開され、1991 年には「北斗星トマムスキー」号として一般営業を開始、予約困難な人気を博したが、2008 年 3 月に老朽化を理由に営業運転を終了。
ラウンジカーとダイニングカーは、2009 年 9 月より、ららぽーと新三郷に展示。ラウンジカーのみ内部見学可能。
デラックススリーパーは、2011 年 12 月より、江東区木場のレストラン「アタゴール」に設置。
「夢空間」車両は、のちに開発・製造された「カシオペア」や「TRAIN SUITE 四季島」などに大きな影響を与えている。
・今回の譲渡対象となる「ダイニングカー」（オシ 25 901）と「ラウンジカー」（オハフ 25 901）の詳細を説明。
「ダイニングカー」は東急車両が製造、東急百貨店が内装デザインを担当。大きな展望窓と四人用の個室を設けている。
「ラウンジカー」は富士重工業が製造、松屋百貨店が内装デザインを担当。豪華な装飾、自動演奏ピアノ、バーカウンター、ゆったりとしたソファなど、「オリエントエクスプレス」を彷彿とさせる内装。

◆委員からの意見

・今後期待できる活用案としては、児童館の施設としての活用、清瀬市の新たなランドマーク、プロモーションツールとしての活用が可能。
・外観は可能な限り元に戻し、内装についてもできる限りオリジナルの姿に戻す。
・車両の再塗装、クラウドファンディングを活用した修復費用の調達を検討。
・土足禁止、清掃、定期的な再塗装などの具体的な保存方法を検討。
・委員全員が「夢空間」の譲受に賛成。
・今後の活用方法に期待するとの意見。
・保存と活用は相反する面があるため、バランスを考慮した計画が必要。
・車両を傷つけないよう、活用方法を工夫する必要がある。
・多摩六都科学館の事例を参考に、壊されることを前提とした展示物の製作も検討すべき。
・公開日を限定する、入れる場所と入れない場所を作るなどの対策が必要。
・10 年単位で使い方を改めるなど、長期的な視点での計画を立てるべき。
・児童館としての活用は難しい可能性もあるため、大人も楽しめる観光スポットとしての活用を重視すべき。
・ダイニングカーで読み聞かせを行う、ラウンジカーの内装を撤去するなど、柔軟な発想で活用方法を検討すべき。
・看護大との連携による講話やガイドツアー、地域住民を巻き込んだイベントの実施。
・子ども食堂としての活用（厨房施設の活用を検討）。
・時間貸しによる収益確保。
・夜間のレストラン営業（看護大の学食との共同運営も検討）。
・クラウドファンディングを実施する際は、明確な目標（元の状態に戻すなど）を示すことが重要。返礼品として「夢空間」グッズを製作。
・企業との連携（食品会社への協賛依頼など）。